



楓の誉

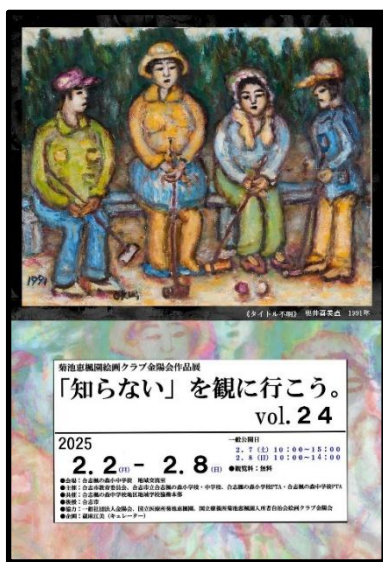
R8.1.23(第13号)

文責：高田 幸伸

『「知らない」を観に行こう』
～菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展～

来る二月二日(月)～八日(日)の期間で、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展(地域交流室)を開催します。(※一般公開は、二月七日(土)：午前十時～午後三時)と八日(日)：午前十時～午後二時)の二日間です。)

この作品展は、合志市教育委員会、本小・中学校、本小・中学校PTAが主催し、一般社団法人金陽会、菊池恵楓園、菊池恵楓園入所者自治会絵画クラブ金陽会をはじめ、キュレーターの蔵座江美様、地域の方々の協力のもとで開催され、今回で四回目となります。昨年度は、ハンセン病問題への学習を深めた三年生数人の生徒が、絵画の展示の際に、イーゼルなどの設置に携わらせていただき、ハンセン病問題に対する学びをさらに深める機会となりました。保護者の皆様、地域の皆様のご来場を心よりお待ちしております。



〈今回の作品展示のポスター↑〉

「ことばを通して、いじめをなくしたい。」
～ことば教育を実施しました。～

一月に入り、元熊放送アナウンサーで「授業にことば教育を」と提唱され、合志市の「ことば教育」を推進されている岩元 克雄先生に全学年、全学級で授業をしていただいています。

岩元先生は、「ことばの教育を通して、いじめなどをなくしていきたい。」とその思いを語られました。また、その思いを原動力に、ご自分のアナウンサーの経験を生かして、ことばの持つ意味や表現等について、小学一年生から中学三年生まで幅広い年代で授業を展開されています。



〈 発声練習の様子 ↑ 〉

授業は、発声から始まりました。「ことばは『口を縦と横に大きく開けて声を出す。』『発声練習は、背筋を伸ばして姿勢が大切』と生徒に語りかけられます。「あ・い・う・え・お」「い・う・え・お・あ」「え・お・あ・い・う」……と一斉に起立して、発声練習をしていきました。生徒たちは、少しずつ声が出てきます。

そして、音読と朗読の違いについて話されました。音読は、書いてあることを正確に読むこと。朗読は、「このことばは、どういうものか」、「自分の声でどう表現するか」、「そのことばを十分に理解したうえで、他の人にどう理解してもらおうか」など、考えたり気持ちを込めたりしながら、表現方法などを工夫して読んでいくこと、とお話がありました。その後、実際

の国語の教科書に出典されている教材文をとおり、授業が展開されていきました。

ことばや文章の意味や内容、そして込められた思いなどをどう理解して、どう表現していくのか、生徒のみならず、私達大人も考える時間となりました。

「おはようございます。」
～生徒会活動を通じたあいさつ運動～

新生徒会執行部や各委員長が中心となって、あいさつ運動を展開しています。今年は、「あなたのあいさつで楓の森を笑顔に」ということばが書かれた旗を持ちながら活動しています。



〈 あいさつ運動の様子 ↑ 〉

「おはようございます」「こんにちは。」「さようなら。」「等のあいさつは、コミュニケーションのはじまりであり、社会生活を営むうえでとても大切なものです。校訓である「稚心を去り 己を啓く」もこのあいさつが出发点であるといっても過言ではありません。また、あいさつを積極的に言うことや相手から受け取ったあいさつをどのように返していくのかなどは、ことば教育にも通じる自分、そして相手を大切にすることにもつながります。

あいさつで、学級や学校、地域を元気にしていけたらと強く思います。あいさつは、ほんの数秒で、自分や周囲の人を元気にする「魔法の言葉」です。

※学校生活の様子や様々な情報は、本校HPに随時、掲載しています。



学校HPの
QRコード